

令和6年度 世田谷区立 喜多見小学校 学校関係者評価自己点検表		A	B	C	D	E
		とても 思う	思う	あまり 思わない	思わない	わからない
1 学習指導について						
自分は、子どもたちが考えることや、課題を解決することを大切に授業を行っている。		14	15	0	1	0
自分は、黒板の書き方やプリントなどを工夫している。		7	18	5	0	0
自分は、子どもの話し合ったり発表し合ったりする機会を作っている。		12	17	1	0	0
自分は、映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている。		4	20	5	1	0
理由 今年度はどの教科においても板書をなるべく書いて、より分かりやすく指導できるように準備をしました。児童の実態に沿って、想像しにくいものや理解しにくいものは映像やタブレットの資料などを用いて授業をするようにしている。 視覚優位の児童にとって整理された板書ができるよう、事前にイメージしておく。・学級の子どもたちの中には、考えを表出するのに時間がかかる子がいるので、多くの子どもが自分の考えをもてるよう、導入を工夫できる授業を増やしていく。 ・自分自身がタブレット操作に時間がかかることがあるので、自己研鑽していく。先輩教員の授業を見学しに行き、授業方法を参考にさせていただき、授業改善に努めていく。日頃から意識している。授業後は板書を写真に収め日々反省・改善を試みている。使用教室にモニターがなくて子どもにわかりやすい指導ができていないと感じる場面がある。既成のプリントを使っただけで、自分なりに工夫することはしていない。特別支援について学び、改善していきたい。前の学校ではパソコンのみでタブレット端末の仕様は教員はしていなかったため、使いこなせなかった。ロイロなどを来年度以降は活用していきたい。授業に抜けての準備や教材研究などが不十分になってしまうことある。						
【改善策・考察】 「世田谷探究的な学び」を意識して、今後も授業を行っていく。 国語で研究授業を行っているので、学校全体として、子どもたちが話し合ったり、発表し合ったりする機会が設けられている。話し合ったり、発表し合ったりするためには、子どもたちが自分の考えをしっかりとつことが大切である。 今後も引き続き、授業のねらいをはっきりとさせ、子どもたちが、主体的に学べる授業作りを行っていく。 ICTの利活用については、研修などの時間を活用し、教員同士で情報共有することで、学んでいく。						
2 生活指導について						
自分は、学校での過ごし方やルールについて子どもに考えさせる指導をしている。		14	14	2	0	0
本校は、教員が指導した学校での過ごし方やルールについて子どもが理解している。		15	22	2	0	0
理由 ルールについては繰り返しその場、その場で指導が必要だと思う。日々児童の生活の様子を見て、気になることがあれば都度声をかけたり、クラスの話題として取り上げたりして指導するように心掛けている。 学校のルールに関しては喜多見スタンダードで確認したり意識するような声掛けをしたい。						
【改善策・考察】 多くの教員が子どもに考えさせることを意識して指導している。今後も各クラスで喜多見スタンダードを確認すると共に、考えさせる指導を継続していく。						
3 学校行事(運動会、学芸会、宿泊行事など)について						
学校行事は、子どもにとって楽しい。		20	10	0	0	0
学校行事は、子どもにとって達成感がある。		16	14	0	0	0
自分は、子どもの意欲を大切にしている。		16	14	0	0	0
理由						

子どもにとって楽しいかは、子どもではないのでわかりません。どの行事も職員の負担になりすぎず、かつ児童の成長をよく促して良い規模感だと感じる。					
【改善策・考察】 多くの子どもたちが、行事には意欲的に取り組んでいるが、個人差がある。一人ひとりに目標やめあてを設定させ、振り返らせることで達成感を味わえるようにしていく。					
4 キャリア教育について					
自分は、子どもに目標をもたせ、その実現のために支援している。	3	26	1	0	0
本校では、子どもの生き方や将来のことについて考える授業をしている。	4	24	2	0	0
理由					
【改善策・考察】 様々な学習や行事を通して、自分を見つめたり他者とかわつたりする機会を設けていく。 キャリアパスポートを活用し、児童の自己理解を促し、明るい未来を想像する児童の心の育成を続けていく。					
5 教職員について					
本校の教職員は、丁寧な指導している。	17	12	0	0	1
本校の教職員は子どものことを相談しやすい。	13	16	0	0	1
理由					
他の先生方の指導を見させていただく機会が少ないため。木曜B時程のおかげで教員間の連携を取るゆとりがもてるようになっていと感じる。					
【改善策・考察】 学校全体として、子どもたち一人ひとりに寄り添いながら、指導を行っている。今後も継続していくと共に、特別支援教育の視点を学んでいく。					
6 全般について					
本校の学校生活は、子どもにとって楽しい。	6	23	0	0	1
子どもは、家庭で自主的に学習をしている。	1	10	12	1	6
本校は、近隣の(幼)・小・中学校で構成する「学び舎」による幼稚園・小学校・中学校の連携や交流活動が行われている。	5	23	1	0	1
本校の教育活動に満足している。	5	20	4	0	1
子どもは、体力の向上や健康な生活に取り組んでいる。	4	22	3	0	0
理由					
子どもにとって楽しいかは、子供ではないのでわかりません。家庭学習においては積極的にタブレットを活用していくことで自主的に取り組めると思う。家庭学習の時間は取れても、「自主的に」はできていない児童が多い。自主的に勉強する方法を指導していく必要があると考える。 「いいあせかこう」の取り組みが薄い感じがする。喜多見中学校や近隣の幼稚園・保育園とも連携して、改善していくか、ほかの形にしていって検討したい。タブレットの普及から外で遊んだり、体を動かしたりして楽しめる児童が減っている。					

【改善策・考察】 学校生活について、学習面も生活面も安心して生活できるような人間関係を子どもたち同士で築けるようにする。 家庭学習については、タブレットの活用が有効的だという意見もあるので、よりよい活用法を教員間で共有していく。 学び舎については、1小1中の関係を生かし、よりよい活動を考えて行く。					
7 学校からの情報提供について					
本校は、様々な便りなどで、保護者に情報を提供している。	7	20	3	0	0
「学び舎」の区立(幼稚園・)中学校について情報が提供されている。	4	21	3	0	2
本校は、学校公開や保護者会などで、児童の様子が分かる。	10	19	1	0	0
本校は、ホームページやメールなどで、保護者に情報を提供している。	8	18	3	0	1
理由					
【改善策・考察】 ホームページを定期的に更新できるように各学年に担当をつくる。					
8 学校運営について					
学校の重点目標が明確である。	10	20	0	0	0
校長をはじめ教職員は、協力して教育活動に取り組んでいる。	12	17	0	0	1
0	0	1	0	0	0
理由					
【改善策・考察】 今後も重点目標を学校全体で実現できるように、職員で協力していく。					
9 家庭と学校との連携について					
保護者は、学校公開にすすんで参加している。	5	22	2	0	1
私は、学校行事、PTAや地域主催の行事などにすすんで協力している。	5	20	4	1	0
私は、今年度の学校重点目標を理解している。	9	21	0	0	0
理由					
【改善策・考察】 多くの保護者は、学校公開に参加している。今後も多くの保護者が参加できるように公開の日程を考えていく。					
10 地域との連携について					
本校は、地域の人や施設を教育活動に生かしている。	8	19	2	0	0
本校は、地域の活動などに協力的である。	6	22	0	0	1
理由					

	【改善策・考察】 地域のみなさんがとても協力的なので感謝をしつつ、今後も生かしていく。				
11	学校の安全性について				
	学校は、安心・安全な学校づくりを進めている。	8	22	0	0
	本校は、避難訓練やセーフティ教室などで、子どもに安全に関する指導をしている	14	16	0	0
	本校は、自然災害時の対応を子どもや保護者に提供している。	11	18	1	0
	理由				
	【改善策・考察】 防災ノートの活用を今後も継続する。マイタイムラインは、家庭で取り組むものなので、保護者会や学年だより等で協力を依頼する。				
12					
	子どもたちは、あいさつをよくする。	2	18	9	1
	子どもは、場に応じた言葉遣いができる。	1	13	16	0
	子どもは、文字を読むことが好きである。(デジタルを含む。)	1	15	13	0
	子どもは、登下校時に交通ルール守り、安全に登下校している。	1	17	11	0
	子どもは、学習用品スタンダードに従って、タブレットを家庭で使用している。	1	8	11	2
	子どもは、学校で決められた時間(週時程表や喜多見小学校スタンダード)を守っ	2	18	9	0
	子どもは、提出物を期日までに提出している。	1	20	5	0
	私は、幼稚園・保育園から中学校までの連携教育や世田谷区独自の教育活動つ	1	22	7	0
	理由				
	赤鉛筆ではなく、赤のサインペンやボールペンを使用している児童や携帯用の鉛筆削りのかすをゴミ箱に捨てる児童が見られる。				
	【改善策・考察】 あいさつ、言葉遣いについては、教員が率先してあいさつ、丁寧な言葉遣いをするようにする。また、合わせて家庭と連携していく。 登下校のルールや学習用品スタンダードについては、そのルールがなぜ必要なのかを根気強く考えさせていく。				